

Q&A こんなときどうするの？

Q. 読み方にコツはありますか？

A. 読み方には、技術などは一切必要ありません。大好きな家族が本を読んでくれることだけで、子どもは大満足です。

Q. 0歳の赤ちゃんに読み聞かせてできるんですか？

A. お座りがまだできない時期は、絵本を持っている家族の顔を見るだけかもしれませんが、ゆっくりと赤ちゃんに語りかけるように読んでみてください。何度か繰り返すうちに、絵にも興味を示すようになります。

お座りができる時期になったら、絵を見ながら話したり読んだり…。このやりとりの中で、赤ちゃん和家人との間にゆたかな時間が流れます。

Q. 赤ちゃんは大人のように見たり聞いたりしているのですか？

A. 生まれて間もないころは超近視で、ぼんやり白黒。でも、お乳を飲ませてくれるお母さんの顔は、見えています。カラーの世界はお座りができるようになった頃からです。

赤ちゃんに聞こえている世界は、大人の世界とは違います。早口や低い音が苦手。ゆっくり読んで、ゆっくり話してあげてください。

Q. 同じ絵本ばかり何度も読んでとせがまれて困っているのですが？

A. 幼児期にかけては、同じ絵本ばかりせがむ子どもが多いものです。子どもにとっては、この「くり返し」が楽しいのです。心配せずに、せがまれる間は、何でも読んであげてください。



Q. 読み聞かせには、どんなよさがありますか？

A. 読み聞かせによって、家族の絆が深まります。

また、乳幼児期にお話を聞くことで、言葉によって表現された世界を自分の頭の中で思い描く力（想像力）が養われ、将来の読解力の基礎となります。

幼児にとって、ひとつひとつの言葉を頭の中で思い描き、想像しながら読むことは簡単ではありません。そこで、大人に絵本を読んでもらい、さし絵を手がかりとしながら耳で聞いた言葉の世界を頭の中に描くことが、子どもの想像力を養うことに適していると言えます。

Q. もっといろいろなよい本を与えたいと思ったら、どうやって見つければいいのですか？

A. 図書館の職員に相談してみるのがよいでしょう。ぜひ、声をかけてください。また、読み聞かせボランティアの皆さんもたくさんの情報もっています。「おはなし会」などに参加してみるのもいいですね。

Q. 小学生になっても読み聞かせをしてあげていいのですか？

A. 小学生も読み聞かせは大好きですから、ぜひ読んであげてください。朝の読書タイムなどで読み聞かせをしている学校も増えています。一冊の本との出会いを通して、読書の楽しさに目覚め、自発的な読書活動へとつながっていくこともあります。